

平成26年9月24日

各 位

大阪信用金庫  
理事長 樋野 征治

## 特別調査：「中小企業における情報管理の現状について」

- ☆ 高まる情報管理の重要性 71.3%が重要と認識
- ☆ 情報管理の社内規定あり わずか22.4%
- ☆ 重要情報の保管場所 パソコンの中が62.0%
- ☆ 情報セキュリティに関する問合せ 10.5%

### ●高まる情報管理の重要性 71.3%が重要と認識

「情報管理」の重要性について、「非常に重要である」は21.8%、「重要である」は49.5%となり、7割以上の企業がその重要性を認識しています。その背景には、昨今の大手企業による情報漏洩が大きな社会問題となったことが最も影響していると思われます。

### ●情報管理の社内規定あり わずか22.4%

「情報管理」の重要性を認識する企業は7割を越えましたが、その社内規定がある企業は22.4%に止まりました。社内規定を整備している企業のなかでも、組織体制の無い企業が半数以上を占めました。また、社員教育を行っていない企業が8割となることから「情報管理」に対する取り組みは不十分と思われます。

### ●重要情報の保管場所 パソコンの中が62.0%

個人情報などの重要情報の保管場所は「パソコンの中」が62.0%となり、多くの企業は重要情報をパソコンに保管しています。しかし、情報セキュリティ対策では、「パスワードの設定」は31.3%、「データへのアクセス制限」は9.0%、「データへのアクセス記録」は2.9%となり、パソコンのセキュリティ対策は不十分と思われます。

### ●情報セキュリティに関する問合せ 10.5%

情報セキュリティ対策に対する取引先からの問合せがある企業は、全体ではわずか10.5%となりましたが、従業員規模が大きくなるほど問合せは増加しています。

問合せの内容では、「取引先の顧客情報」が50.8%と最も多くなりましたが、製造業では「製造方法・部品の技術情報」(55.6%)や「製品・商品情報」(51.1%)が多くなっています。

「情報管理」は、企業の信用力の向上や顧客に大きな安心感を与えますが、対策を行うこと自体が必ず売上や利益の増加に直接つながるものではないと思われます。しかし情報漏洩にともなう損害賠償額は高額になるケースも多く、今後、情報管理の重要性はますます高まると思われます。中小企業では、資金力や人材に余裕のある企業は少なく、少ないコストで既存の設備や人材を利用して対策を実施することが求められると思われます。

調査時点：平成26年9月上旬  
対象企業：当金庫お取引先1,805社（大阪府内、尼崎市）  
回答企業：1,284社（回答率71.1%）  
調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします  
株式会社だいしん総合研究所（担当：平山）  
TEL：(072)238-8021 FAX：(072)238-8002  
E-mail：souken@osaka-shinkin.co.jp  
URL <http://www.osaka-shinkin.co.jp>